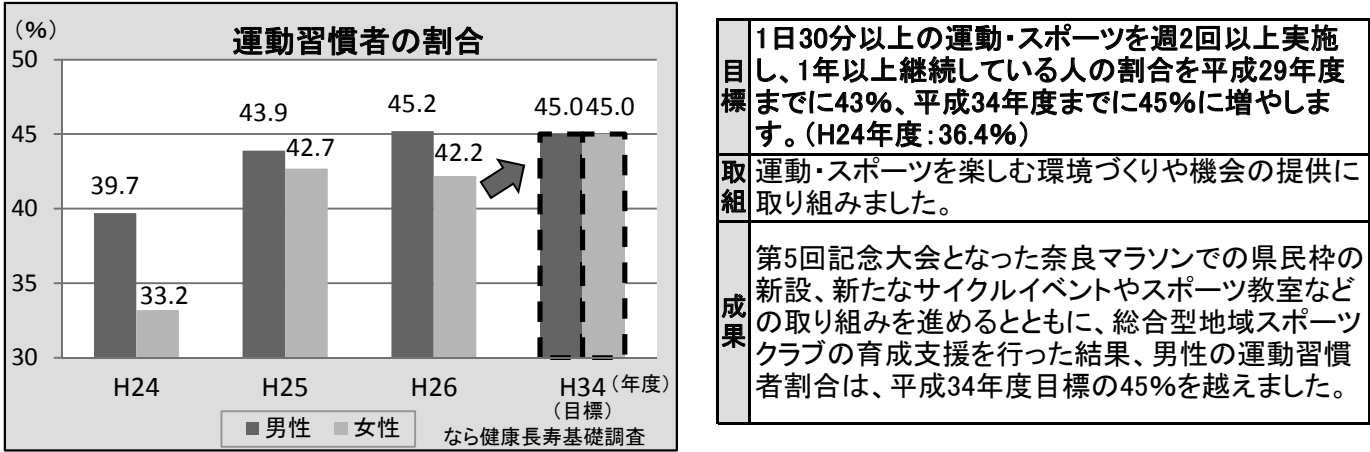


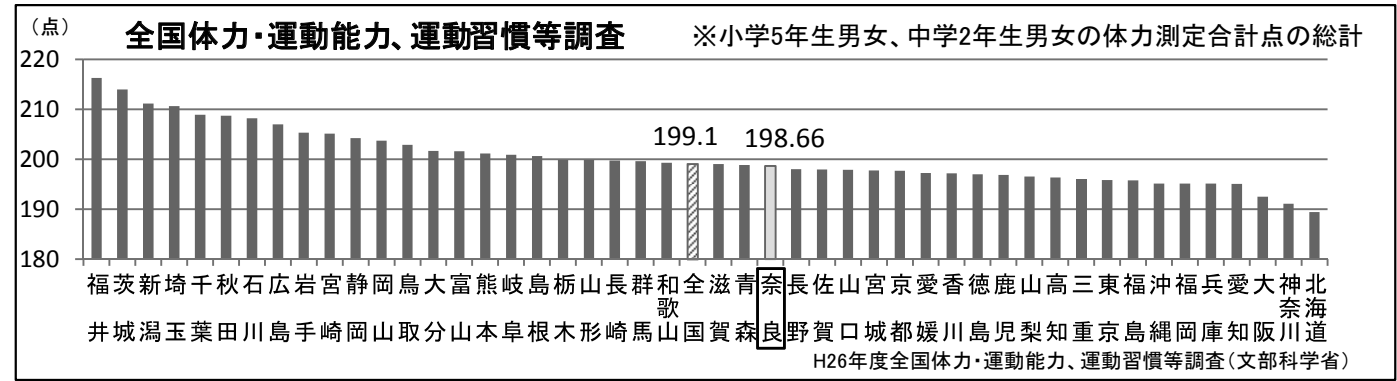
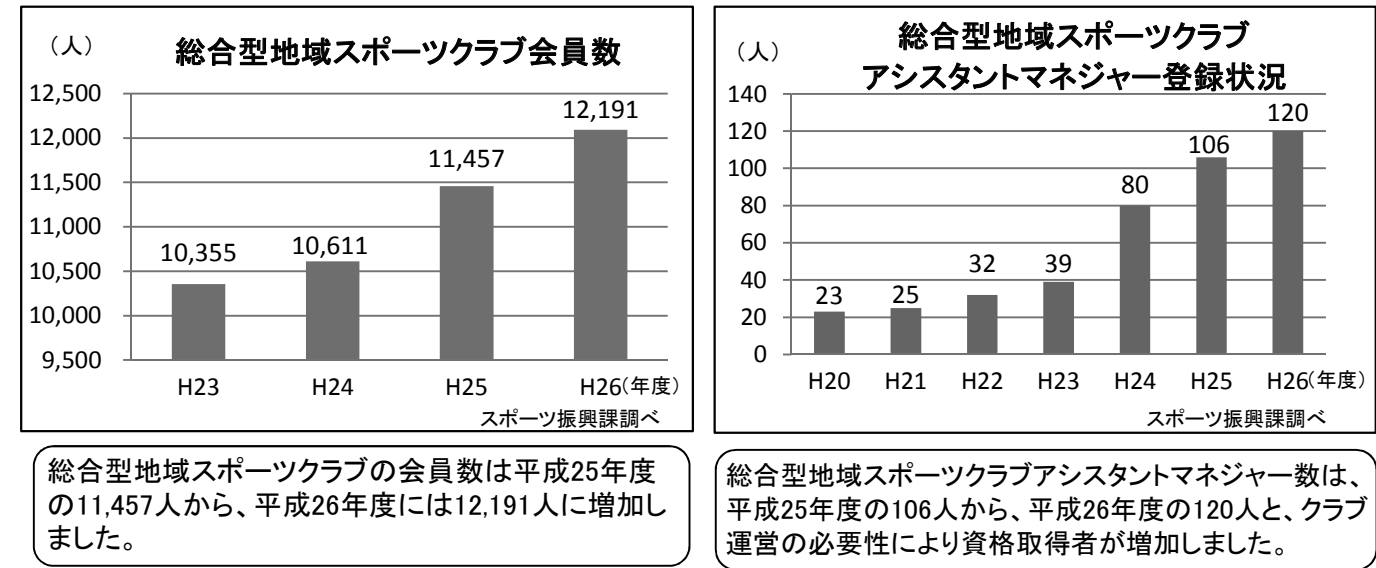
主担当部局(長)名	くらし創造部長 中 幸司
関係部局(長)名	地域振興部長 一松 旬、南部東部振興監 辻本 浩司、健康福祉部長 土井 敏多、 県土マネジメント部長 加藤 恒太郎、まちづくり推進局長 金剛 一智、教育長 吉 田 育弘

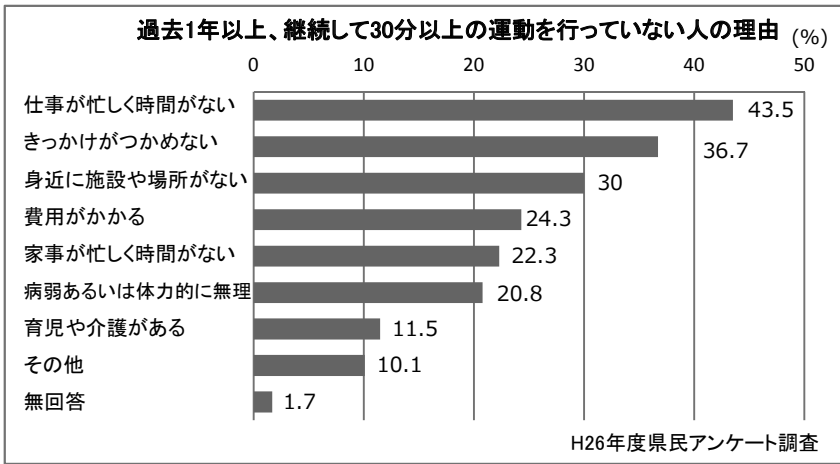
重点課題	Ⅱ くらしの向上 7 スポーツの振興
目指す姿	「活き活きと安心して健やかに暮らせる健康長寿の奈良県」を実現するため、生涯にわたり、「県民のだれもが、いつでも、どこでも、運動・スポーツに親しめる環境づくり」を目指します。

1. 政策課題の進捗状況

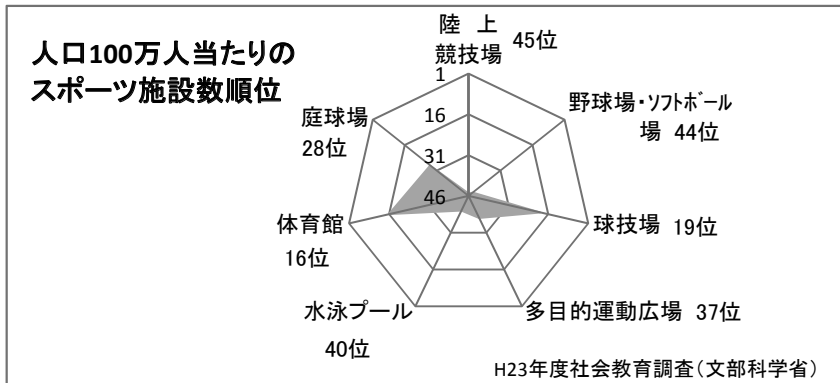


2. 現状分析





過去1年以上、継続して30分以上の運動を行っていない人の理由としては、「仕事が忙しく時間がない」が一番多く、次に「きっかけがつかめない」、「身近に施設や場所がない」など、スポーツへの関心・意識の低さに起因すると思われる理由が挙げられています。



人口100万人当たりの主なスポーツ施設数については、体育館と球技場は10位台にありますが、それ以外は低位にあり、奈良県内におけるスポーツ施設の少なさが顕著となっています。

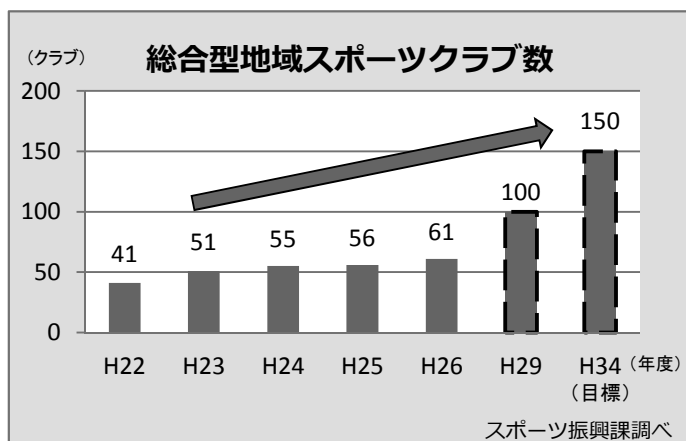
目的達成のプラス要因	奈良県の持っている強み	内部(内的要因)	奈良県の抱えている弱み	目的達成のマイナス要因
	1 平成26年の奈良マラソン出走者数は11,593人(フルマラソン)となっており、地域のイベントとして定着 2 奈良マラソンは、東京・大阪・神戸マラソンをしのぐ高評価であり、特にボランティアによるおもてなしと沿道の応援が参加ランナーに評価 3 奈良県は、豊かな自然、起伏のある地勢、美しい風景や歴史的な景観、文化財をはじめとする観光資源等が豊富 4 奈良県の児童生徒の体力は、平成26年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、小学生男女、中学生男女すべてにおいて上昇 5 総合型地域スポーツクラブの活性化		6 青壮年期(20～64歳)の運動習慣のある人の割合が低く、また男性に比べ女性が低い 7 スポーツ観戦へ行く人の割合が低い 8 スポーツ施設が少ない 9 大きなスポーツイベントを招致できる施設が不足 10 キッズ・ジュニア期からの選手強化体制・施設が整っていない 11 プロスポーツチームが少ない 12 奈良県を拠点にする実業団チームが少なく、能力を持った高校生・大学生が県外に流出 13 中・高校の運動部活動加入率が低調	
	奈良県への追い風	外部(外的要因)	奈良県への向かい風	
	a ウォーキングやジョギング、サイクリングなど健康づくりが全国的なブーム b ロンドン、ソチオリンピックで奈良県ゆかりの選手が活躍 c 2019年ラグビーワールドカップの日本開催。試合会場の一つに近隣の東大阪市や神戸市が決定 d 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催 e スポーツツーリズムへの関心の高まりとともに、国においても観光立国の実現に向けた取り組みを積極的に推進		f 趣味・趣向の多様化 g 移動手段等の利便性の向上による運動不足 h 各都道府県・市町村も市民参加型のスポーツイベントに力を入れており、差別化が困難 i スポーツ施設の老朽化	

3. 施策課題の進捗状況

戦略1: だれもがいつでもスポーツを楽しめる環境の整備を図ります。

主担当課(長)名 | スポーツ振興課長 村上 健

戦略目標	総合型地域スポーツクラブ数を平成29年度までに100クラブ、平成34年度までに150クラブに増やし、だれもがいつでも気軽にスポーツを楽しむことの出来る場を提供します。(H25年度: 56クラブ)
------	---



取組	総合型地域スポーツクラブへの支援内容を充実しました。
成果	総合型地域スポーツクラブ数は、市町村等に対する支援により、平成22年度の41クラブから、平成24年度55クラブ、平成26年度は61クラブへと少しずつではありますが、順調に増加しています。

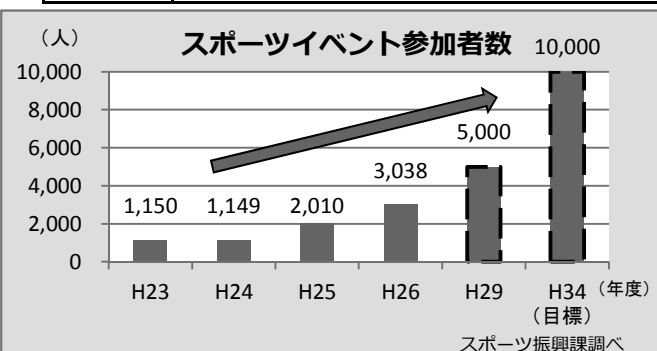
主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
ライフステージに応じた運動・スポーツの推進				
公園・広場に健康遊具等設置市町村数(市町村)	6 →	9 ↗	16 ↗	スポーツ振興課
障害者の運動・スポーツの推進				
県障害者スポーツ大会参加者数(人)	1,060 ↗	1,068 ↗	1,045 ↘	障害福祉課
身近な公共施設等の活用				
スイムピア奈良利用者数(人)	— —	— —	79,191 —	公園緑地課
橿原公苑におけるナイトラン参加者数(人)	20,364 ↗	26,845 ↗	29,915 ↗	スポーツ振興課

これまでの成果

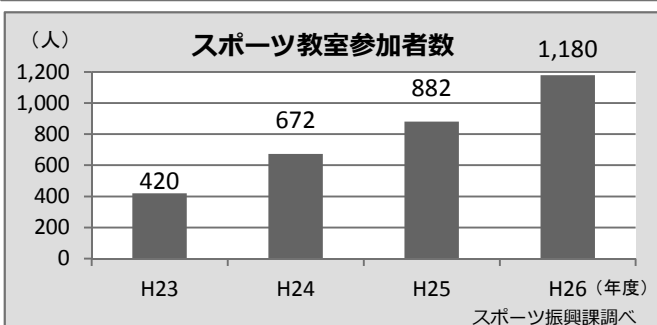
- ・スポーツ支援センターが積極的に市町村及び総合型地域スポーツクラブを訪問し、相談や啓発活動を行うとともに、毎年アシスタントマネジャー養成講習会を実施したことにより、総合型地域スポーツクラブ育成率が92.3%(H25年度)から94.9%(H26年度)に、アシスタントマネジャーは106人(H25年度)から120人(H26年度)にそれぞれ増加しました。
- ・平成25年度に県内の既存スポーツ施設にかかる調査・検討を実施し、その結果を踏まえ、平成26年度は、整備目的や方針、施設機能や整備手法など、今後の検討に向けた基本的な考え方を指針としてまとめました。
- ・平成26年7月にトレーニングジムや屋外50mプール、屋内25mプール等を備えた「スイムピア奈良」がオープンし、あわせてリニューアルしたファミリープール(開業期間: 7/19-8/31)は、64,782人(H26年度)が利用し、両施設合わせて、143,973人(H26年度)が利用しました。

戦略目標

- ▶スポーツイベント(総合型地域スポーツクラブ交流大会)の参加者数を平成29年度までに5,000人、平成34年度までに10,000人に増やし、スポーツツーリズムを推進します。(H24年度: 1,149人)
- ▶県内外で活躍できるスポーツ選手を育成する体制の整備を進め、競技力の向上を図り、国民体育大会での総合成績を平成34年度までに20位台に上昇させます。(H25年度: 37位)



取組	スポーツイベント(総合型地域スポーツクラブ交流大会)を充実させました。
成果	県内の総合型地域スポーツクラブで構成する連絡協議会による交流大会事業が活発化してきたことにより、参加者数は年々増加しており、平成26年度は3,038人に増加しました。



取組	トップアスリートによるスポーツ教室を開催しました。
成果	スポーツの活性化と子どもたちへあこがれや感動を与えるため、普段はあまり接することのできないトップアスリートによるスポーツ教室を開催し、サッカー、陸上、野球、水泳のトップアスリートによるスポーツ教室に1,180人の少年少女が参加しました。

主な取組指標等	平成24年度	平成25年度	平成26年度	担当課名
トップアスリートの育成				
国民体育大会の総合成績(位)	35	37	35	スポーツ振興課
スポーツ指導者数(日体協公認)(人)	2,026	2,126	2,081	スポーツ振興課
プロスポーツによる地域の振興				
プロスポーツの試合数(試合)	5	29	32	スポーツ振興課
参加型スポーツイベントの実施				
奈良マラソンへの奈良県民のエントリー者数(人)	7,434	7,096	8,227	スポーツ振興課
サイクルスポーツイベントへの参加者数(人)	418	1,559	3,795	スポーツ振興課

これまでの成果

- ・旅行会社と提携しパック旅行を企画したことにより、奈良マラソンへの海外からのエントリー数が133人(H25年)から232人(H26年)に増加しました。
- ・トレーニングセンターの整備にあたって、基本的な方針や導入機能、トレーニングプログラムなど、今後の整備に向けての基本的な考え方をまとめました。
- ・県南部地域の観光資源であるおおたき龍神湖を活用し、平成26年9月と10月に初心者、障害者も楽しめるカヌー体験イベントを開催しました。(参加者数: 147人)
- ・平成26年11月県が主催するリレーマラソン大会を県立樫原公苑で開催しました。(参加者数: 1,790人)
- ・平成24年度より紀伊半島三県(三重・和歌山・奈良)が連携してクラブ振興のための交流大会を開催(H26年参加者数: 180人)し、また、平成26年度からは女子サッカー強化合宿も実施しました。(H26年参加者数: 36人)
- ・バンビシャス奈良が平成25年度シーズンよりbjリーグに参戦したことにより、プロスポーツ観戦の機会が大幅に増加しました。(ホームゲーム数: 30試合)

4. 平成28年度に向けた課題の明確化

＜政策課題の進捗状況＞ 1日30分以上の運動・スポーツを週2回以上実施し、1年以上継続している人の割合を増やすために、運動・スポーツを楽しむ環境や機会の提供に取り組み、男性の運動習慣者割合は45.2%と、平成34年度目標の45%を越えました。	＜奈良県の持っている強み＞ 1 平成26年の奈良マラソン出走者数は11,593人(フルマラソン)となっており、地域のイベントとして定着 2 奈良マラソンは、東京・大阪・神戸マラソンをしのぐ高評価であり、特にボランティアによるおもてなしと沿道の応援が参加ランナーに評価 3 奈良県は、豊かな自然、起伏のある地勢、美しい風景や歴史的な景観、文化財をはじめとする観光資源等が豊富 4 奈良県の児童生徒の体力は、平成26年度「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」では、小学生男女、中学生男女すべてにおいて上昇 5 総合型地域スポーツクラブの活性化	＜奈良県の抱えている弱み＞ 6 青壮年期(20～64歳)の運動習慣のある人の割合が低く、また男性に比べ女性が低い 7 スポーツ観戦へ行く人の割合が低い 8 スポーツ施設が少ない 9 大きなスポーツイベントを招致できる施設が不足 10 キッズ・ジュニア期からの選手強化体制・施設が整っていない 11 プロスポーツチームが少ない 12 奈良県を拠点にする実業団チームが少なく、能力を持った高校生・大学生が県外に流出 13 中・高校の運動部活動加入率が低調
＜施策課題の進捗状況＞ ・市町村等への支援により、総合型地域スポーツクラブ数が平成22年度の41クラブから平成26年度は61クラブへ増加しました。 ・県内の総合型地域スポーツクラブで構成する連絡協議会による交流大会事業が活発化したことにより、イベントへの参加者数が3,038人に増加しました。 ・スポーツの活性化とあこがれや感動を与えるため、スポーツイベント及びトップアスリートによるスポーツ教室を開催し、1,180人の少年少女が参加しました。		
＜奈良県への追い風＞ a ウォーキングやジョギング、サイクリングなど健康づくりが全国的なブーム b ロンドン、ソチオリンピックで奈良県ゆかりの選手が活躍 c 2019年ラグビーワールドカップの日本開催。試合会場の一つに近隣の東大阪市や神戸市が決定 d 2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催 e スポーツツーリズムへの関心の高まりとともに、国においても観光立国の実現に向けた取り組みを積極的に推進	＜強みで追い風を活かす課題＞ ・参加型スポーツイベントの実施(1,2,3,5,a,e) 【重要課題】ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致(2,b,c,d) ・スポーツツーリズムの推進(1,2,3,a,e)	＜弱みを踏まえ追い風を活かす課題＞ ・東京オリンピック・パラリンピックに向けたジュニア・トップアスリート育成(10,12,13,b,d) ・ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地招致に向けた施設整備(8,9,c,d) ・プロスポーツ誘致のためのアーリーナの整備(7,8,9,11,d) 【重要課題】東京オリンピック・パラリンピックを契機としたトレーニングセンターの整備(8,10,12,13,b,c,d) ・トップアスリートを活用したスポーツイベントの実施(7,9,11,b) ・青壮年期の運動・スポーツへの誘導(6,7,9,11,a,c,d)
＜奈良県への向かい風＞ f 趣味・趣向の多様化 g 移動手段等の利便性の向上による運動不足 h 各都道府県・市町村も市民参加型のスポーツイベントに力を入れており、差別化が困難 i スポーツ施設の老朽化	＜強みで向かい風を克服する課題＞ ・風景等を楽しみながらウォーキングやジョギングも楽しめる環境整備(3,5,f,h) ・幼児期からの運動習慣づくり(4,5,h)	＜弱みを踏まえ向かい風に備える課題＞ ・気軽に健康づくりをまち中で楽しめる健康遊具を整備(6,g) ・既存スポーツ施設の中長期的な整備の検討(8,9,i)

5. それぞれの課題についての今後の取組方針

強みで追い風を活かす課題	今後の取組方針
参加型スポーツイベントの実施	・他の同様のイベントと差別化を図るために内容の充実を検討します。 ・定期開催として定着しているイベントについて、マンネリ化とならないよう内容の刷新等を検討します。 ・だれもが、気軽に参加でき、運動を始めるきっかけづくりになるイベントを検討します。
【重要課題】ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックのキャンプ地招致	ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックそれぞれのキャンプ地招致に向けた推進会議を立ち上げ、関係機関へのプロモーションや地元での機運醸成イベント等を実施します。
スポーツツーリズムの推進	豊かな自然、起伏のある地勢、美しい風景や歴史的な景観、文化財をはじめとする観光資源等を生かしたスポーツイベントを開催し、奈良県への誘客を促進します。

弱みを踏まえ追い風を活かす課題	今後の取組方針
東京オリンピック・パラリンピックに向けたジュニア・トップアスリート育成	県内競技団体をはじめ、医療機関や有識者との意見交換等により、ジュニア及びトップアスリートの育成・指導方法を確立させていきます。
ラグビーワールドカップ・東京オリンピック・パラリンピックキャンプ地招致に向けた施設整備	キャンプ地として利用可能な県有施設の整備については、キャンプ地招致活動と連携しながら検討を進めていきます。
プロスポーツ誘致のためのアリーナの整備	平成26年度に策定したアリーナ整備にかかる指針に基づき、今後はまちづくりの拠点施設となるよう各関係部局が連携しながら検討を進めていきます。
【重要課題】東京オリンピック・パラリンピックを契機としたトレーニングセンターの整備	・トレーニングセンターの運営スキームについて検討します。 ・スポーツ医科学について研究します。 ・体力向上、健康増進のための運動プログラムを研究します。
トップアスリートを活用したスポーツイベントの実施	プロ野球選手による野球教室や奈良県ゆかりのトップスイマーによる水泳教室、陸上短距離の男女日本代表選手によるリレーフェスティバル開催など、子どもたちがスポーツにあこがれをもち、スポーツを始めるきっかけづくりに取り組みます。
青壮年期の運動・スポーツへの誘導	地域スポーツの中心となる総合型地域スポーツクラブへの支援を行うとともに、親子で参加できるイベントを開催します。

強みで向かい風を克服する課題	今後の取組方針
風景等を楽しみながらウォーキングやジョギングも楽しめる環境整備	だれもが、気軽に参加できるよう、多様なウォーキングイベント等の開催を検討します。
幼児期からの運動習慣づくり	子どもの頃から運動の楽しさを体験し、運動に親しむことで生涯にわたり運動習慣が定着するよう取り組みます。

弱みを踏まえ向かい風に備える課題	今後の取組方針
気軽に健康づくりをまち中で楽しめる健康遊具を整備	・散歩の途中などでも気軽に楽しめる健康遊具をまち中へ設置することを検討します。 ・市町村に対しても同様の施設整備促進を検討します。
既存スポーツ施設の中長期的な整備の検討	県立橿原公苑一帯のスポーツ施設の老朽化に伴い、中長期的な改修・整備に向けた、将来の橿原公苑全体のあり方の検討を行います。

6. 平成26年度評価において見直しを行った課題、取り組み

見直した課題	見直した取組方針、見直した内容
参加型スポーツイベントの実施	だれもが、いつでも、気軽に運動・スポーツを楽しめるようスポーツイベントの実施に取り組むこととしました。特に、既存のスポーツイベントについては、マンネリ化とならないよう内容の刷新を図るとともに、新たなイベントの検討も進めていくこととしました。